



# ADRC Highlights

Vol.160

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

16 April 2007

## ➤ フィリピン国ルソン島マヨン山付近における泥流被害調査を実施

アジア防災センター (ADRC) は、山口大学大学院のオレンセ・ロランド助教授 (フィリピン国出身) と共同で、2006 年 12 月 1 日にフィリピン国ルソン島南部のレイヨ山付近にて発生した泥流被害について、1 月 15~17 日の 3 日間、現地調査を行いました。期間中は、現地防災機関での情報収集や、地元住民へのアンケート調査、また専門家による泥流被害の分析を主に行いました。

フィリピンには現在 21 もの活火山があり、その中でも、マヨン山 (標高: 2462m) は約十数年周期で活動をする噴火活動が激しい活火山の一つです。近年においても、度重なる火山に伴って発生した堆積物による泥流がマヨン山麓で多発しており、付近住民への被害が頻発しています。

今回の被害は、2006 年 11 月 26 日にフィリピン東部で発生した台風 21 号 (DURIAN) が、12 月 1 日にルソン島を通過し、その際にもたらした豪雨が引き金となって泥流が起きたと考えられています。フィリピン気象天文庁によると、同日におけるマヨン山周辺の地域では、1 日で 466mm もの降雨があったと報告されました。また、市民防衛局によると、全土で 655 名の死者、2437 人の負傷者、および 445 名の行方不明者が出たと報告されており、特にマヨン山の東部から南部にかけて被害が集中していることが分かっています。



今回の調査では、泥流被害に関する住民への聞き取り調査ならびに地盤工学の視点からのフィールドワークを行いました。これらの調査の結果から、災害時における適切な避難地および早期警報システムの不備などが明らかになりました。ADRC は、今後発生しうる泥流被害に備えて、コミュニティレベルでの防災における知識の普及というソフト面において、住民への支援を行うことを検討しています。この件につきましては、池田研究員 ([iked@adrc.or.jp](mailto:iked@adrc.or.jp)) までお問い合わせください。

今回の調査では、泥流被害に関する住民への聞き取り調査ならびに地盤工学の視点からのフィールドワークを行いました。これらの調査の結果から、災害時における適切な避難地および早期警報システムの不備などが明らかになりました。ADRC は、今後発生しうる泥流被害に備えて、コミュニティレベルでの防災における知識の普及というソフト面において、住民への支援を行うことを検討しています。この件につきましては、池田研究員 ([iked@adrc.or.jp](mailto:iked@adrc.or.jp)) までお問い合わせください。

## ➤ アジア防災センターと JICA の防災面における協力 □ JICA セミナー「イラン地震災害管理者研修」

ADRC では、独立行政法人国際協力機構 (JICA) と様々な形で、防災面における連携・協力を推し進めていると

ころですが、このたび「JICA イラン地震災害管理者研修」を、2007 年 2 月 18 日から 3 月 3 日までの 2 週間にわたり、JICA 兵庫との協力のうえ、実施いたしました。

今年度は、イランの防災実務者レベルを対象に、行政計画庁や住宅都市開発省、内務省など防災担当省庁から計 12 名が参加しました。

期間中のプログラムは、日本の防災体制をモデルケースとして学び、自然災害による被害の軽減を目的に組み、次のような要素が重点的に取り入れられました。(1) 日本政府による防災対策の基本、(2) 地震に対する災害予防策、(3) 阪神・淡路大震災と復興の経験と教訓、(4) 建造物の耐震化。

参加者は、まず自国の防災事情をカントリーレポートとして発表した後、関係省庁や防災機関を訪問し、防災に関する取り組みについて包括的に学びました。日本政府による防災対策としては、内閣府、気象庁等を訪問し、日本の災害予防対策の概要や災害時の応急対応、気象情報の把握・伝達業務について講義を受けました。また、地方自治体の防災対策としては、神戸市危機管理室、人と防災未来センターを訪問し、1995 年の阪神・淡路大震災から得た貴重な教訓とその後の復興対策について説明を受け、質疑応答も多く交わされました。また、東京の本所防災館を訪問、イランにはまだこうした施設が存在していないことから、市民向け防災意識啓発施設の重要性について学びました。



各参加者はこれらの知識や経験を各国に持ち帰って、防災行政のリーダーとして自国の防災体制の強化のために活躍することが期待されています。

当センターでは、今後とも、JICA セミナーなど人材育成プログラムを通じて、国際防災協力に貢献していく所存です。なお、この件については、当センター研究員の池田 ([iked@adrc.or.jp](mailto:iked@adrc.or.jp)) までお願いいたします。

## ➤ お知らせ

2007 年 4 月 2 日付で、当センターの寺西章浩主任研究員が派遣元である兵庫県 (県土整備部下水道課) へ、河内紳吾研究員が、内閣府 (災害予防担当) へ異動となりました。また、同日付で、田中修平が当センター主任研究員として着任しました。

ご意見・ご要望等があれば  
右記までご連絡ください。

編集・発行: Asian Disaster Reduction Center (アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 ひと未来館 5F

E-mail: [editor@adrc.or.jp](mailto:editor@adrc.or.jp) TEL: 078(262)5540 FAX: 078(262)5546

誌代・送料: 無料 / 毎月 2 回発行 (予定)